



『スパークス 日本株長期投資のすすめ』

スパークスの株式投資、株式市場などに対する見方を紹介するコラムです。

第62号(2009年12月25日)

「海外進出しているどのような日本企業が投資対象となるのか」

11月27日付け「日本株長期投資のすすめ」では、日本には世界に誇れるモノづくり技術があるという話をしました。世界の競争に対して日本（あるいは日本人）が持つ強みとはいったい何でしょうか。私も、**「こつこつ」とモノを作る職人氣質的な文化と、それに関わる企業間の長期的な連携プレーだと考えます。**

先進国アメリカと日本それぞれにおけるグローバルトップ企業を比較してみると、特徴がみえてきます。もともと米国企業が得意とするのは、インターネット、半導体・PC、金融のようにルールや業界標準を自らが作り上げ、主導権を握ることで強みを発揮する分野です。たとえば半導体はデザインルールが世界中で公開（オープン・アーキテクチャ）されており、すべてのメーカーはそのルールに則って製品開発を行っています。このため、製造元企業が異なる部品同士を組み立てて製品化することが可能となります。かつて米IBMがメインフレームと呼ばれる大型コンピュータからパソコン事業に参入する際に、この方法を採用したことで短期間のうちに成功を収めたというのは有名な話です。またコカコーラやマクドナルドのようにブランドアピールを巧みに世界展開し、消費者にそのイメージを刷り込むことで成功した企業も多く存在します。

一方、日本発の世界に通じるブランドのなかにはコカコーラやマクドナルドに対抗できるような製品・商品はなかなか見つかりませんが、自動車、家電、カメラなど優れた品質に裏打ちされたブランドというのは、数多くあります。日本人の性格上、自らを積極的に売り込んだり、宣伝するのは得意ではないかも知れませんが、製品の完璧さを徹底的に追求することで周囲から広く認められるようになるケースは意外と多いと思います。例えば自動車の開発生産は、完成車メーカーと部品メーカーが一体となって進めます。性能、居住性、燃費、安全性などの要件を同時に満たすためには、複雑多岐にわたる技術を社内外で綿密に相互調整し、部品間で試行錯誤を重ねていかないとなりません。こういったプロセスは日本企業が最も得意とするところですが、そしてこれを可能にしているのが、終身雇用制や系列システムといった日本独特の仕組みといえるでしょう。前者は、「匠の技術」といわれるようなマニュアル化できないノウハウ（暗黙知）を伝承するためには不可欠ですし、後者は会社組織の壁を越えた連携を可能にします。

昨今、躍進著しいファーストリテイリングのユニクロブランドもベーシック衣料をモノづくりの観点から徹底的に取り組んでいるという印象が鮮明です。衣類としては異例ともいえる大ヒット商品「ヒートテック」は合繊メーカーである東レ社と素材から共同開発を行っており、そのラベルには「Japan Technology」と銘打ってあります。価格だけでなく、その圧倒的な品質と機能性が強みとなっているのです。有名な経営学者である藤本隆宏東京大学教授は、このような日本の製造業の長所を「擦り合わせ型」と呼び、長期的信頼関係から生み出された製造ノウハウを持つ企業の国際競争力は相対的に強い傾向が見られると分析しています。



本資料は、スパークス・アセット・マネジメントが情報提供のみを目的として作成したものであり、金融商品取引法に基づく開示書類ではありません。また特定の有価証券の取引を勧誘する目的で提供されるものではありません。スパークス・アセット・マネジメントとその関連会社は、本資料に含まれた数値、情報、意見、その他の記述の正確性、完全性、妥当性等を保証するものではなく、当該数値、情報、意見、その他の記述を使用した、またはこれらに依拠したことに基づく損害、損失または結果についてもなんら補償するものではありません。ここに記載された内容は、資料作成時点のものであり、今後予告することなしに変更されることもあります。また、過去の実績に関する数値等は、将来の結果をお約束するものではありません。この資料の著作権はスパークス・アセット・マネジメントに属し、その目的を問わず書面による承諾を得ることなく引用または複製することを禁じます。

『スパークス 日本株長期投資のすすめ』



スパークスの株式投資、株式市場などに対する見方を紹介するコラムです。

第62号(2009年12月25日)

一方、歴史的に世界中から移民を受け入れているアメリカは日本とは対極的な競争力の源泉を持っています。即ち文化や価値観の異なる移民をまとめるためマニュアル化を行い、共通ルールを設けることでスピード感ある成長を遂げました。同教授によると、こうした米国企業が得意とするのは、事前の擦り合わせがなくても大量生産が可能な「組み合わせ（オープン・モジュラー）型アーキテクチャの製品」であると指摘しています。

私どもはただやみくもに海外進出している日本企業に投資することは考えておりません。世界のなかで日本が独自の強みを発揮できる分野で事業展開している会社なのかどうかを考えた上で、未だ株式市場によってその将来性が認知されていない（株価が実態価値に比べて割安に放置されている）企業を探していると考えています。特に、日本のモノづくりを従来の資本財、耐久消費財といった範疇だけでなく日用品や医療器具、小売関連まで含めた広義でとらえ、幅広く投資機会を模索していくことが狙いです。

(注) 本コラムは、マネックス証券Web-Site「マネックスラウンジ」の「マネックスメール」に掲載されている「スパークス・アセット・マネジメントの『SPARX Way』」をもとにスパークスが作成したものであります。また、上記は株式投資に関して理解を深めていただくためのものであり、特定の有価証券を推奨しているものではありません。



本資料は、スパークス・アセット・マネジメントが情報提供のみを目的として作成したものであり、金融商品取引法に基づく開示書類ではありません。また特定の有価証券の取引を勧誘する目的で提供されるものではありません。スパークス・アセット・マネジメントとその関連会社は、本資料に含まれた数値、情報、意見、その他の記述の正確性、完全性、妥当性等を保証するものではなく、当該数値、情報、意見、その他の記述を使用した、またはこれらに依拠したことに基づく損害、損失または結果についてもなんら補償するものではありません。ここに記載された内容は、資料作成時点のものであり、今後予告することなしに変更されることもあります。また、過去の実績に関する数値等は、将来の結果をお約束するものではありません。この資料の著作権はスパークス・アセット・マネジメントに属し、その目的を問わず書面による承諾を得ることなく引用または複製することを禁じます。